

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

春

2011 Vol.618

◆特集○話題の焦点

『これからの建設業と広報の役割』

◆夢インタビュー

障がい者の自立支援を通じて だれもが人間らしく働き、暮らせる社会を目指す

◆行ってみよう

自然と親しむアグリツアー

◆おじゃまします

高島鋳建 株式会社



辻野会長を囲んで 『これからの建設業と広報の役割』

長浜市余呉町から福井県南越前町に至る国道365号の椿坂峠付近は、急なカーブや勾配が多く、積雪などでしばしば通行が困難になったことから、周辺に暮らす人々は道路の改築工事を長年待ち望んできました。

滋賀県建設業協会の辻野宜昭会長と広報委員会の宇田毅委員長、藤井典史副委員長の3名が、まだ雪の残る椿坂トンネルの建設現場を訪れて、友野雄士作業所長の案内で掘削中の現場を見学しました。

その後、これからのまちづくりに建設業が果たす役割や、協会の広報のあり方などをテーマに座談会を行いました。

湖国 街かどウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

大津市おごと温泉観光公園

2月1日にオープンした「おごと温泉観光公園」は、おごと温泉を活用した交流・情報発信施設として大津市によって整備されました。「おごと温泉旅館協同組合」が指定管理者として公園の管理・運営を行っています。



大屋根が印象的な観光交流センター

の約72㎡、長さ12メートル、幅1.5メートルの屋根付きの足湯施設は、20〜30人が同時に利用できるもので、来訪者同士あえるには地元の人達との会話が自然に生まれる癒しと交流の場として早くも話題になっています。

大屋根が印象的な観光交流センターは、明るく開放的な吹き抜けの空間に、無垢材がふんだんに取り入れられていて、訪れる人を温かく迎えてくれます。観光案内カウンターのほか、柚子ジャムや棚田米など地元の物産を展示販売するスペース、地元の食材にこだわったカフェ「COCOTOCOTTON」、段細工などの手作り体験ができる「COCOTOCOTTON工房」などが併設されています。

琵琶湖を見晴らす約6200㎡の「ことごとガーデン」には、季節の花々と緑の芝生を縫うように園路やベンチが設けられていて、散歩のほか、カフェで購入した食事や飲み物をオープンエアで楽しむこともできます。

周辺の美しい棚田や里山などを楽しむノルディックウォーキング体験や、比叡山坂本地区への観光にも便利な電動アシスト付き自転車のレンタサイクルも行う



泉質が良いと評判の「ことごと足湯」



4月からは、地元産の野菜などを販売する日曜朝市が開催されるほか、今後はさまざまなイベントを実施して、おごと温泉のシンボルとして情報発信を行っていきます。

場所 ● 大津市雄琴1丁目2番17号
☎ 077(578)3750
朝7時〜夜7時 水曜日・年末年始休場

<http://www.ogotoonsen.com/koen/>



国道365号「椿坂トンネル」

滋賀県と福井県との県境、栃ノ木峠〜中河内、椿坂の区間は、滋賀県でも有数の豪雪地帯で、未改良区間は車道幅員5.0mの1車線、雪崩等の発生もあることから交通の難所となっています。

県の道路改良事業「椿坂道路」は、トンネルを主体とする2車線のバイパス道路(総延長3250メートル)を建設して、冬期も安全に通行できるようにするとのことなので、全長



1842メートルの椿坂トンネルは、平成21年3月から掘削工事が始まり、23年3月23日現在で1073メートルまで掘削が進んでいます。

すぐ側を走る柳ヶ瀬断層の影響を受けやすい地形で、堅い岩盤と崩れやすい破砕帯が複雑に入り交じっていることから、工事は慎重に進められています。また、濁水の流出防止対策や周辺河川の水質調査の実施など、環境への影響にも配慮しながら工事が行われています。完成は平成25年3月の予定です。

CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………2	大津市おごと温泉観光公園……………2
特集・話題の焦点……………3	辻野会長を囲んで『これからの建設業と広報の役割』……………3
夢インタビュー……………6	障がい者の自立支援を通じて、だれもが人間らしく働き、暮らせる社会を目指す 城 貴志さん……………6
ビジネス最前線……………7	生産者や消費者を巻き込んだ地産地消のおみやげづくり行ってみよう……………7
自然と親しむアグリツアー(竜王町)……………8	おじゃまします……………10
高島鉦建 株式会社……………10	近江建築探訪……………12
大戸川発電所……………12	「仕事の達人・遊びの達人」……………13
土田 真也さん……………13	バスル&クイズ……………14
見れば納得 見学会報告……………14	車づくりを楽しむ会社「童夢」……………14
元気いただきます……………16	近江うまいもの紀行……………18
湖国の祭りあれこれ……………18	読者の声……………19

今、求められる建設業の「見える化」

宇田 今日見学させていただいた現場でも、地元のみなさんの期待に応えようと、誇りとやりがいを持って仕事をしておられることが伝わってきたのですが、一方で、フォトコンテスト写真展の来場者にアンケートを行うと、子どもに建設業で働いてほしいと思う親はわずか2%しかないという現実があります。なぜ建設業は人気がないのでしょうか？

辻野 建設業に携わる私たち自身が請負業であり、公共工事は誰のためにするのか、お客さんが誰なのかわかっていないところに問題があります。

雪のためしばしば通行できなくなる交通の難所で、バイパスの開通を心待ちにしている地元の方々がおられるわけです。今日のトンネル工事のように、無駄な費用を抑えて、質の高い工事を実現するために、24時間体制で仕事をしている人たちがいることをもっとわかってもらうような努力が必要です。

藤井 仮囲いやシートで覆われている現場は市民の方からは見えにくいので、どんな工事なのか、安全や環境にどのように配慮しているのか、そういったことが見えるようにしていくことも大切です。

困いを掲示板的に活用して、例えば地域の子どもの描いた絵を展示するとか、側を通る市民のみなさんに興味や関心を持っていただく仕掛けづくりも必要になると思います。

辻野 オープンキッチンの洋菓子店のように、中でやっている仕事が見えるようになればいいのですが…。

藤井 囲いの内側で一生懸命ものづくりをしている様子は、なかなか見えにくいですが、例えば、週に一度でも周辺の清掃をしていると、



スターを制作するのがいいとは限りません。今日のトンネル現場の友野所長のように、誇りや甲斐を持ってものづくりをしておられる方に話をさせていただくと、建設業の素晴らしさが

伝わり、業界のイメージはとも良くなると思えます。現場主義と言いつか、現場にもっと来ていただけるようにするとか、現場でがんばっている人の声や表情を伝える取り組みがイメー

知られていない地元建設業の役割

辻野 これまで建設業は男の世界という意識が強すぎたと思うのですが、まちづくりには女性の視点や、子どもを中心にした発想などが必要で、これからは子どもをきちんとおさえたいかならなければいけないと思います。

宇田 建設現場でもこんな仕事をしています。という看板をきちんと掲げて、内容を紹介するつもりを自由に取っていいようにするといいいのではないのでしょうか。子ども向けのちらしも用意しておくと、子どもが家に帰って帰ってくるはず。

宇田 建設会社が担っていることが当たり前のようになっているのは、地域との関わりが深かったという歴史なんです。しかし、地域の建設業がそのまま疲弊し続けると、除雪や防災に対応できなくなるということではほとんど知られていません。

現場と地域住民を結ぶイメージアップにつながる

宇田 滋賀県建設業協会は公益法人化移行の予定ですが、これを機に建設業協会のあり方、果たす役割も変えていかなければならないと思います。

辻野 これまでの役所主導のお任せ団体から、



辻野 宜昭会長 TSUJINO

喚起していくことも必要だと思えます。
藤井 橋や道路などで、更新時期を迎えるものが多くなっています。いたずらに危機感をおおるのではなく、正しい情報を業界から発信していくことも大切です。

辻野 この冬は雪が多く、地域の建設会社は朝の暗いうちから除雪作業に追われました。「除雪請負によって建設業が潤うのでは」と言われることが多いのですが、朝の3時、4時から作業を始めるのは「放っておけない気持ち」からで、ボランティア的な側面が大きいはあまり知られていません。

藤井 地域を守らなければという思いで昔からやってきたことは、直接的な利益を考えたら得意なことが多いんです。琵琶湖一斉清掃でも集めたゴミを処理施設まで運ぶのは地元の建設会社によるボランティアのタッグです。

宇田 建設会社が担っていることが当たり前のようになっているのは、地域との関わりが深かったという歴史なんです。しかし、地域の建設業がそのまま疲弊し続けると、除雪や防災に対応できなくなるということではほとんど知られていません。

防災かまどベンチ
公園などに設置して、災害時には炊き出し用のかまどとして使用できます。



写真はイメージです

安全な地域社会を実現するために、建設業として何ができるのかを、社会に提案しながら仕事を創り出すという発想が必要です。役所がプランを作って発注する工事から、地域住民が要望を出し、風土に合う企画立案をして、必要度を考えながら優先順位をつけて実施していく公共工事。つまり住民自らが創り出す公共事業には、地域で営業している不動産、設計、建設、電気、設備、造園、それらをサポートする建設産業関連企業が住民と協議・検討をしながら、経済的で地域事情に合う企画を立案していく仕組みが必要です。住民との協働作業は、同じ目線で地域の夢を語り合える場づくりの一環なのです。

藤井 橋坂トンネルのように、開通した後は地域の暮らしが安心して便利になり、ほんとうに良かったと思ってもらえるような、地域ニーズに合うものが建設されるといいですね。これから地域住民と建設業が情報交流をし、安心・安全・快適・環境保全の提案をしていく必要があります。

宇田 市民のみなさんに、公共工事は自分たちのためであるというところをわかってもらうために、広報の果たす役割が大切になります。

辻野 建設業のイメージアップというのも協会の役割だけだと、お金をかけて新聞広告やポ



FUJII 藤井 典史副委員長

くといったことにも取り組んでほしいと思います。

市民、行政、専門家との協働でこれからのまちづくりを考えよう

辻野 これからの建設業は、地産地消という考え方をもち取り入れていくことも必要です。例えばフォレストベンチ工法は環境を保全しながら土砂崩れを防止する工法ですが、地元の間伐材を矢板として利用することができず、滋賀県にはせっかくたくさん大学のあったり、産学連携を進めて、いろいろな知恵をお借りしながら、地元の木を使う事業などにも積極的に取り組んでいくのがいいと思います。

藤井 例えば、昔からあるトラス工法なら、木造で講堂などの大スパンの建物を作ることも可能ですね。

辻野 行政だけでなく、市民や研究者、専門家を交えて、いろいろな意見を聴きながらまちづくりを考えていく、そこにしっかり建設業が地歩を占めていくことが大切になると思います。

宇田 これまでは、誰のための何のための広報かというのが不明確になつていったと思います。もっと焦点を絞れば切り口も見えてきて、より効果の高い広報を行ってほしいですね。



UDA 宇田 毅委員長

今後は、会員のみなさんや県民の方々の声を取り入れながら、建設業がもっと元気になるような広報活動を展開していきたいと思えます。

生産者や消費者を巻き込んだ 地産地消のおみやげづくり

株式会社いのうえ
大津市丸の内町4-41
TEL.077-522-7352
http://www.oishiga.com/

滋賀県産の素材にこだわった
滋賀まるごとカレーと近江牛丼



大津の農産物を使った
「大津まるごとカレー」



生産者を巻き込んだ商品開発が
メディアにも取り上げられた。



商品開発を手掛ける井上修司専務

昭和24年創業の株式会社いのうえは、湖魚の佃煮や耐すしなどの滋賀・大津のおみやげの販売からスタートしました。現在、滋賀県産の材料にこだわった、さまざまなオリジナル商品の開発・販売を手掛けています。

商品開発に取り組んできた井上修司専務は、「大津のおみやげとして販売されているけれど、実際はどこでそれが作られたかわからない商品が多いことが気になっていました。おみやげの本来的な姿は、その土地でとれたものをその土地で加工したもの、そこしか買えないものではないかと考えていました」と振り返ります。

自社で取り扱う商品になんとかさそうといったおみやげを増やしていきたいと奮起した井上専務が、最初に作ったのが近江米の米粉を40%入れた「近江米うどん」でした。

「ちょうど米の問題や食料自給率などがクローズアップされていた時で、いろいろなアイデアを取り上げてもらうことができたんです。地産地消が注目され出した頃で、おみやげもこれからはそういう視点が大切になる、滋賀県産のものを使ってもいいという商品開発でできないかと考えるようになった」と井上専務。

さらに、消費者、生産者、販売店など巻き込んだづくりをするために、びわ湖放送のパーソナリティー川本勇氏に「何かいっしょにできないか」と相談したことがきっかけとなって、大津市や農協びわ湖大津観光協会まで巻き込んだ「大津まるごとカレー」が実現しました。

まず、「大津には何がある？」というところから始めて、野菜や比良すいかを生産している農家や、近江しゃもや味噌の生産者を井上専務が訪ねて、その様子を番組で紹介しながら製品化しました。パッケージは成安造形大学の学生たちの協力を得ることができました。

「こういった手法で商品開発することで、生産者の方々のネットワークが広がり、今まで知らなかったことに気づくことができました」と言う井上専務。わが子のように手塩にかけて近江牛を育てている畜産農家や、滋賀でただ一人きのこマイスターの資格を持つこの生産者など、生産者と直接つながれたことのメリットは大きいと指摘します。

第2弾として近江牛をテーマに商品開発に取り組み、どんな過程で商品づくりが行われるかメディアを通して消費者に伝えることで、みんなでものづくりする楽しさを発信しました。「いろいろな立場の人たちといっしょにものづくりすると、ほんとうに『欲しい』と言ってもら

えるものを作れることがわかりました。もちろん、そのためにはメディアの力をうまく利用することも大切ですよ」と言う井上専務。

現在、販売中のコラボ商品「近江牛肉まんモーやる気まんまん」も、FM滋賀の番組からの申し出で、元気がでる商品を開発しようということになったもので、リスナーもいっしょにものづくりしているという一体感を感じてもらえるよう、箱の中にはリスナーから募集した「やる気格言」の優秀作品を印刷したカードが入っています。

「大津まるごとカレー」はたいへん話題になり、販売も好調だったものの、大津の農家は少量多品種生産で、材料を大量に仕入れるのが難しいという課題も残りました。そこで、次に取り組んだ「滋賀まるごとカレー」では、広く県下から材料調達できるようにしました。

「例えば安土で栽培されている『信長ネギ』は冬のわずかな期間しか収穫できませんが、レトルトに加工することで通年販売できます。いろいろな工夫すればもっとバラエティーに富んだ材料を使った商品の開発が可能です」と井上専務。その土地ならではの「おみやげの復権は、地域の活性化にもつながるため、同社の今後の展開に注目したいものです。」



FM滋賀とのコラボ商品
「近江牛肉まん モーやる気まんまん」

障がい者の自立支援を通じて だれもが人間らしく働き、暮らせる社会を目指す

JRA栗東トレーニングセンターで使用される調教用ゼッケンは年間5000枚。再生可能なゼッケンを選び、滋賀県内の障がいのある人たちが働く作業所で、リメイクされたバッグがsteedのブランドで販売されています。

デザインや品質で消費者に選ばれる製品を作業所で作れるようにしたいと、商品化に取り組んだ城さんにお話をうかがいました。



steed
http://steed.jp/



steedのブランドで販売されている
調教用ゼッケンをリサイクルしたバッグ

●学生時代はあちこち旅をされたそうですね。
沢木耕太郎さんの『深夜特急』を読んで、世界各地を見てまわりたいと思い、アルバイトでお金を貯めてモンゴルやトルコを旅しました。旅先で「日本のことを教えてほしい」と言われて、日本について知らないことに気づき、次は日本を歩いて旅しました。

旅をして一番良かったのは人との出会いです。お金がなくなると宿泊込みでアルバイトさせてもらったり、見知らぬ人間に親切に声をかけてくれる人たちに行く先々で出会いました。

●人とつながることの大切さが、今の城さんの仕事の原点になるのでしょうか。
大学を卒業して、開設間もないこのセンターに入りましたが、その当時、職員は3人で、何の経験もない私も動かさざるを得なくて、怖いもの知らずと言ったか、いろいろなことにチャレンジしました。作業所で働く人たちの収入は1月1万円くらいなんです。これを何とかしたい、作業所で作られる製品をもっと販売できないかと考えて、平和堂さん、ジャスコさん、ダイエーさんにお願いで、月1回の直売会を開かせてもらいました。

●障がいのある人が介護ヘルパーの資格を取って、介護分野で働けるようにするのは画期的な事業ですね。
福祉の受け手から福祉の担い手になるという大胆な発想転換で、全国で初めての取組となりました。実際に資格を取って福祉施設に就職した人た

ちは、収入が安定して自立した生活ができるようになりました。おしゃべりしたり、仕事帰りに居酒屋に行ったり、普通に働き普通に生活を営む彼らを見て、確かな手応えを感じることができました。

●それが、調教用のゼッケンを使った製品づくりにつながったんですね。
トラックの幌をリサイクルしてバッグを作るスイスのフライングは、世界的に人気の高いブランドです。デザインも品質もそれくらい優れたものを目指したいと考える、ブランド名は「steed」(英語で「馬」という意味)としました。

製造には複数の作業所が関わっていて、障がいの程度に合わせて、洗浄や縫製など役割分担しています。

●この事業のいいところは、障がい者の仕事づくりに留まらず、廃棄するゼッケンのリサイクルであったり、地域の特産品づくりであったりすることです。栗東商工会と連携して商品開発にも取り組んでいます。

●企業との連携、社会の理解がもっと進むことが必要だと思います。
障がい者の雇用が必ずしも業務の効率を落とすとは限りません。むしろ、無理や無駄がなくなり、品質が向上したり、働く環境が改善される例が多いんです。効率優先の組織より、それぞれの個性を尊重し、強みや弱みを補い合い、支え合っている組織のほうが強いのではないのでしょうか。



城 貴志さん

〇しろ たかし
社団法人 滋賀県社会就労事業振興センター

佛光大学社会学部社会学科卒業後、社団法人滋賀県社会就労事業振興センターに就職。知的障害者ホームヘルパー養成研修・就労モデル事業を担当。現在、(社)滋賀県社会福祉士会理事、(社)全国重度障害者雇用事業所協会滋賀支部事務局局長を兼務



アルバイトでお金を貯めては旅に出かけた学生時代。写真はトルコを旅した時のもの。



●いろいろな意味で効率を優先する社会の脆さが見えてきていると思います。
私の仕事は障がいのある人の就労支援ですが、その延長線上に障がいのある人もない人も、一人ひとりが大切にされる社会を実現するという目標があります。地域の企業、地域のみなさんといっしょになって、その夢に向かって進んでいきたいと思っています。

見る! 食べる! 楽しみ体験

杉本バラ園

いやしの香りのバラ
フラワーアレンジメント体験

品評会で総理大臣賞など
数々の賞を受賞してきた杉
本バラ園。品質の高さは
折り紙付き。温室でこだ
わりのバラ栽培を見学し
た後、いやしの香りのバラ
を使ったアレンジメント体験
できます。園主・杉本正樹さん
から、バラの効用などについて
プチセミナーもあります。



- 体験料金/3000円～ ※予約制
- 営業時間/9:00～18:00 ■定休日/木曜日
- 蒲生郡竜王町 山之上1541 TEL.0748-57-0451
- 体験の問い合わせは竜王町観光協会 TEL.0748-58-3706

竜王ふなずし工房

ふなずし
飯漬け体験



ご飯とともにじっくり発酵させた「ふなずし」は、滋賀の伝統食
として食通に知られています。竜王町観光協会の主催で、塩漬
けた鮓とご飯を交互に樽に漬けていく「飯漬け」の工程が体
験できます。約6か月～1年後には、自分で漬けた本格的なふな
ずしを楽しむことができます。

- 実施予定 平成23年7月中旬
- 実施場所 アグリパーク竜王
- 参加費用 ①鮓寿し(ゲンゴロウ鮓)
5kg(約13～15匹) 30,000円
10kg(約25～30匹) 60,000円
②鮓寿し(天然ニゴロ鮓)
5kg(約25～30匹) 40,000円
10kg(約40～50匹) 80,000円
- 蒲生郡竜王町岡屋587-2 TEL.0748-58-2099
- 体験の問い合わせは竜王町観光協会 TEL.0748-58-3715

問い合わせ 竜王町観光協会 TEL.0748-58-3715
<http://www.rmc.ne.jp/dragon-kanko/>

竜王町にはほかにも、田んぼのオーナー体験や、町内の農家
と提携した収穫体験、わら細工体験などのメニューがあります。
詳細は竜王町観光協会のホームページを参照してください。



観光農園
収穫体験

- いちご狩り(4月上旬～5月中旬) ※30分食べ放題
大人1300円 小人1000円 幼児800円 1・2歳児300円
- さくらんぼ狩り(6月中) ※30分食べ放題
大人1800円 小人1300円 幼児800円
- 桃狩り(7月中) 食べ放題
大人1100円 小人900円 幼児600円
- ぶどう狩り(8月中旬～9月下旬) 食べ放題
大人1200円 小人900円 幼児600円
- 梨狩り(8月中旬～10月上旬) 食べ放題
大人1100円 小人900円 幼児600円
- 柿刈り(11月中) 食べ放題、お土産付(大人3個・小人2個)
大人1000円 小人800円 幼児500円
- さつまいも掘り(9月中旬～10月下旬)
5株1000円

近江牛と地元産野菜の
バーベキューは
1人前3000円(要予約)



こかぶ
湖華舞牧場

バター作り体験

のどかな牧場の敷地内にある店舗「湖華舞」で
は、しぼりたての牛乳のほか、こだわりのジェラート
やプリン、ケーキなどを楽しむことができます。また、
新鮮な牛乳を使ったバターの手作り体験も受け付
けています。

- バター作りのみ/200円 自家製パン付/500円
※体験は3日前までに予約が必要です。
- 蒲生郡竜王町大字小口字不動前1183-1
TEL.0748-58-2040
- 営業時間 10:30～18:00
- 定休日/水曜日
<http://www.kokabu.co.jp/>



新鮮な野菜やくだもの、加工品を
販売する直売所「ドラゴンちゃん」



体験交流型農業公園 アグリパーク竜王

果樹園や農園を中心とした観光型農業公園で、農作業体験や収穫体験を楽しんだり、
動物と触れ合ったり、1年を通して多彩な体験メニューが用意されています。昭和初期の
農家の暮らしを再現した農村田園資料館のほか、産地直売所やレストランなどの施設も
完備、グラウンド・ゴルフやサイクルポート(足漕ぎボート)も楽しめます。

- 入場料/無料 ※一部有料(農村田園資料館くどうぶつふれあい広場) 大人200円、小人100円
※動物ふれあい広場は農村田園資料館に併設されています。
- 蒲生郡竜王町山之上6526番地 ■管理事務局 TEL.0748-57-1311
- 営業時間/10:00～17:00 ■定休日/月曜日(祝日の場合は火曜日)
<http://www.biwa.ne.jp/aguri-p/>



グラウンド・ゴルフやサイクルポートもできるアグリパーク竜王



農村田園資料館

動物ふれあい広場

ポニー、ひつじ、やぎ、うさぎたちと
ふれ合える子どもたちに人気の
広場。エサ(1皿100円)をあげる
こともできます。広場は農村田園
資料館に併設されています。



西の鏡山と東の雪野山に抱かれ、豊かな田園地帯が広がる竜王町。
近江米のほか果樹や野菜の栽培、近江牛の飼育も盛んに行われていることから、
地域資源を活かしたさまざまな体験型ツアーが楽しめます。
今回は豊かな自然や食文化にふれる旅をご紹介します。

自然と親しむアグリツアー

竜王町



高い技術力と提案力で 地域の信頼に応える企業を目指して

高島鉦建 株式会社

高島市今津町下弘部



本社

砕石事業をコアに 地域密着型の土木・建築業を推進

昭和44年にマキノ砕石株式会社として創業、昭和45年には建設業許可を取得、同55年には高島鉦建株式会社と社名を変更し、公共工事を中心に建設業でも実績を重ねてきました。砕石事業部門では、高島市今津町杉山にあるプラントで、生コンクリートやアスファルトの原材料となる砕石を製造しています。また、平成23年から採取禁止となる琵琶湖中の砂に代わって、砕石に含まれる砂を採取する水洗式選別プラントを平成8年に導入しました。福井県では、特に同社の製品が現在工事中の高速道路建設(舞鶴若狭自動車道)に使われています。

同社では、経営者ハトロールを密に行っており、つねに現場の清掃・整頓に努めながら、品質の高い製品づくりを実現しています。

また、環境省の「エコアクション21」に参加して、製造過程で発生する泥水を工場内でろ過して繰り返し使用したり、濁水を沈砂池で処理してから放流するようにして、周辺環境に配慮しています。

「ボランティア活動」や、琵琶湖岸の清掃活動などを実施しています。

また、「滋賀県ワーク・ライフ・バランス推進企業」として、雇用環境の整備に取り組むほか、家庭教育や地域の子どものためのふれあいの場づくりに協力する「滋賀県家庭教育協力企業協定」にも参加しています。

さらに、地域の小学生を対象とした「CESA環境プログラム」を毎年実施して、建設現場に子どもたちを招いて環境学習を行っています。

協力会社へも声をかけてペットボトルのキャップを回収して、途上国の子どもたちにワクチンを贈る「エコキャップ運動」にも取り組んでいます。昨年9月には2万個のキャップをNPO法人「エコキャップ推進協会」に寄贈しました。

質の高い建設資材を自社で供給できることが同社の一番の強みですが、桑原社長は、「良い人材に恵まれ社員も期待に応えてよく頑張ってくれています。これから地域との信頼関係を大切にしながら、技術力や提案力にさらに磨きをかけて、良いことを学び、感謝の気持ちを忘れず、社員がやり甲斐、生き甲斐を持って



今津町杉山にある砕石事業所とプラント

土木部門では、高島市を中心に、重機作業を中心とする河川改修や道路改良、堰堤工事などで実績を重ねてきました。また建築部門では、地域に密着した公共施設や民間の建築物などを手がけています。安全第一、品質向上だけでなく、環境保全などへの取り組みが高く評価され、滋賀県知事賞をこれまでに3回受賞しています。

知恵、工夫、情熱、努力で 厳しい時代の生き残りを目指す

桑原隆夫代表取締役社長は、「先代(現会長)が徹底して指導してきた『挨拶』『掃除』『約束を守る』ということが社風として社員に浸透している」と評価します。

さらに、品質方針「ISO9001・2008」と「クレーム対応の10原則」「6S運動の徹底」を促し、社員とのコミュニケーションの一環として、報連相シートを活用して、より一層連帯感を深めるよう取り組んでいます。

CSR活動や社会貢献活動にも積極的に取り組んできた同社では、毎月、国道などの清掃活動を行う「淡海エコフオスター環境美化ボランティア」を締めくくられました。



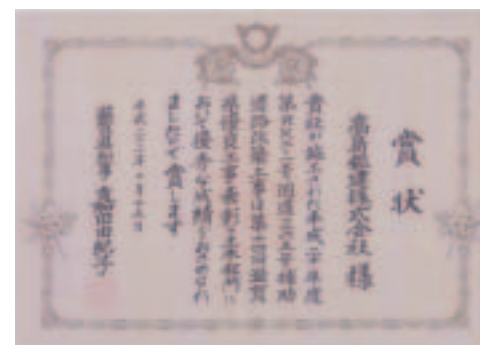
地元の小学生を対象に行っている環境学習「CESA環境プログラム」



「淡海エコフオスター環境美化ボランティア活動」に参加した社員のみなさん



桑原隆夫代表取締役社長



知事賞を受賞した国道の工事と賞状



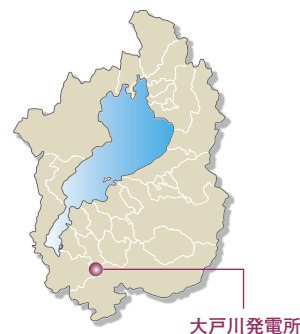
同社が建設した道の駅「藤樹の里あどがわ」の建設風景

大戸川発電所

●大津市上田上

落差七四・二メートルの
水路式発電所

明治三〇年、京都の蹴上発電所から大津に電気が送られて、湖国に初めて電気が灯りました。その後、滋賀県にも水力発電所をとこの気運が高まり、水量の豊富な大戸川（だいがわ）に白羽の矢が立ちました。当時の大津市長であった田村善七が、大戸川水力株式会社を設立して水力発電事業に着手しますが、資金難などのため水利権を京都電燈株式会社に譲渡、明治四二年に発電所建設工事が始まり、明治四四年一月十日に牧発電所として操業を開始しました。



大戸川発電所

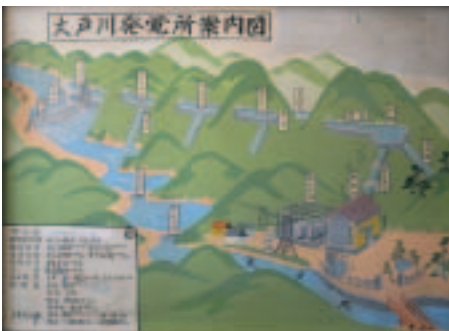
防工事が行われてきました。大戸川発電所はダムで川をせき止めて落差を得るダム式ではなく、上流に設けた取水用の堰堤から導水路によつて水を発電所まで導き、高低差を利用して発電する水路式。開削された導水路は全長四、二八メートルで、途中に五カ所の砂沈池が設けられています。取水口とタービンの間に七四・二メートルの落差があり、直径一



春になると発電所周辺は見事な桜に彩られる。

四メートルの水圧鉄管を流れ落ちた水が二台の横軸フランシス水車をまわし、発電機を二基稼働させて、六〇〇キロワットの電力を発電しています。

今も現役、滋賀県最古の発電所



発電所内に掲げられた古い案内板

発電装置が設置されている本館は赤煉瓦造り。妻側に採光用の丸窓とともに設けられた大小の丸い開口部は、かつては電力ケーブルの引出口として使用されたもので、シンプルながら箱形の外觀ながら、よく見ると破風や壁面に

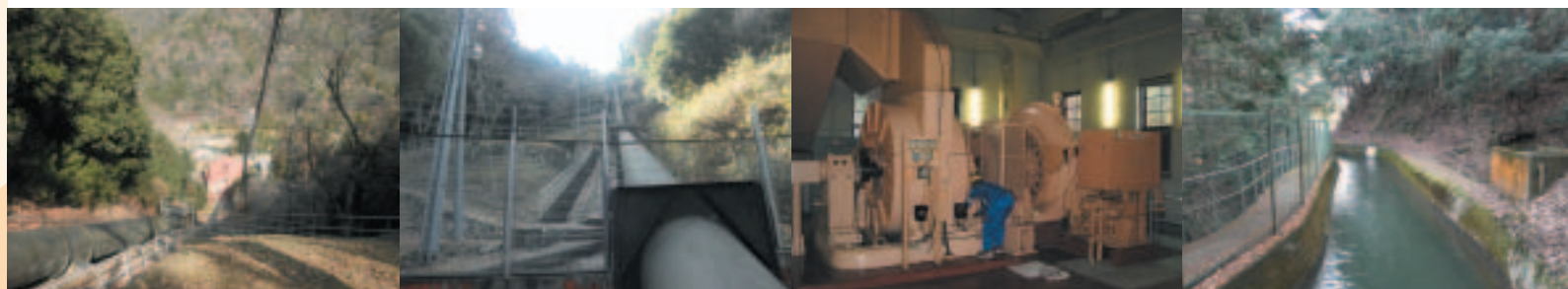


開設間もない頃に撮影された本館（右）。現在（上）もまっくらく変わっていないことがわかる。

細かな装飾が施され、ゆるやかにアーチを描く窓の上部にはキーストーン風の意匠が用いられています。

昭和二六年に関西電力株式会社に引き継がれ、大戸川発電所と改名、今年でちょうど開設百年を迎えました。発電機は明治四二年GE社製で、一部改修されたものの、適切なメンテナンスのおかげで現在も現役で活躍しています。

滋賀県には二の水力発電所が建設され、十三の発電所が現在も稼働しています。クリーンなエネルギーを供給し続けるだけでなく、県内最古の水力発電所として、大戸川発電所の価値は高く評価され、土木学会選定の「現存する重要な土木遺産（一八〇〇選）」でAランクに選定されています。



上水槽から見下ろした発電所本館

74.2メートルの水が流れ落ちる水圧鉄管

建設当初に設置されたGE社製の発電機。適切なメンテナンスによって現在も現役で稼働している。

堰堤から水を導く導水路

【大戸川発電所】大津市上田上牧町 ■JR東海道線 瀬田駅より約8km JR石山駅から帝産バス「信楽」行きで約30分、「発電所前」下車 ■問い合わせ▶関西電力滋賀支店 総務広報グループ ☎077-532-0072

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

ボランティアで小学生に交通安全指導

株式会社ライズ 土田 真也



結団式で挨拶する土田さん

子どもたちが健やかに成長する姿を見ることは、私たち大人の喜びです。私は、五個荘商工会青年部の仲間とともに、毎年8月に地元の小中学生を対象とした交通安全教室を開催しています。今から34年前に先輩たちが始めたものです。

集団登校の正副長を務める約70名の5、6年生を、鈴鹿サーキットに連れて行って、交通安全研修を受講してもらいます。研修では、車に乗って水の上を走り、雨の日はブレーキが効きにくいことなどを実際に体験します。

「交通安全研修を受けましたよ」と言うだけでは、なかなか参加してくれない子どもたちも、研修の後、鈴鹿サーキットで遊べるという特典をつけることで喜んで参加してくれます。親御さんにも、子どもたちが有意義な夏休みの1日を過ごせるということで、とても喜んでいただいています。

研修を通じて、子どもたちは交通安全の知識を身に付け、普段通学で通る道が安全かどうかといったことにも関心を持つてくれます。「この道は危ない、整備が必要だ」という意識が地域から生まれることになり、建設業を続けていくためには、こういった地域を巻き込んだ取り組みも大切だと考えています。

70名の小学生に集団行動してもらうのはなかなか大変ですが、子どもたちが楽しく過ごしながら、知識を増やし成長していく姿にやり甲斐を感じます。

こういった取り組みを継承して、交通安全の精神を親世代から自分たちの世代へ、そして自分たちから子世代へ引き継いでいこうと、町の安心は保たれると思います。

また、五個荘商工会では婚活支援事業にも取り組み、出会いの場づくりとしてイベントを企画しています。さらに結婚を決めたカップルには、県指定文化財の藤井彦四郎邸での結構式を



五個荘小学校で開かれる交通安全教室の結団式



コーディネートしています。地域資源の有効活用や地元の活性化を目指す事業として注目されています。

オフタイムは地域との絆を強めるボランティア活動などに行きたくて、わが町に必要とされる人間になればと願っています。



バスル クイズ

次の難読熟語によみがなをふってください。
一重丸◎をつなぐと？

話題の焦点

案山子

独楽

鯰 鮓

百日紅

怪訝

雪隠

『ここに注目!』



見れば納得

見学会報告

車づくりを楽しむ会社「童夢」

米原市にある株式会社童夢は、創業者の林みゆる社長が、昭和50年に創業した日本を代表するレーシングカー・コンストラクターです。
平成12年に開設された風洞実験施設のほか、平成18年に京都から移転した童夢本社や株式会社童夢カーボンマジックからなる「童夢レーシングブリッジ」が、伊吹山を望む豊かな自然の中に広がっています。



玄関に展示されたルマンカー「DOME S102」

株式会社 童夢

レーシングカー・コンストラクターとして、同社ではこれまでに40種以上のレーシングカーと100台以上のショーモデルや試作車を開発製作してきました。
エントランスホールには、同社が昭和53年に初めて製作したスーパースポーツカー「童夢一零」と、平成20年のル・マンに参戦した「DOME S102」が展示されています。
設計室や実験室、車両のメンテナンスのためのレーシングガレージなどの設備が整った恵まれた環境で、車づくりに魅せられた社員のみならず、技術開発や車両の製造に取り組んでいます。

注1 快適なオフィス

米原工業団地の中にある明るく快適なオフィスは、林社長のアイデアを元にデザインされたもの。例えば設計室は、高い天井や大きな採光窓、ベントハウスやたくさんの小部屋があるゆとり空間で、ものづくりにふさわしい環境が整えられています。また、木のぬくもりにあふれたカフェテリアからは、伊吹山の勇姿を望むことができます。

木のぬくもりがたっぷりのカフェ「win」



明るい設計室

風洞実験施設「風流舎」

風洞実験を重視する開発手法が特徴の同社では、昭和62年に独自開発した25%スケールの風洞実験施設のノウハウを元に、平成12年に50%スケールの風洞実験施設「風流舎」が現在地に開設されました。
50%スケールのレーシングカーなどのモデルに人工的な風を当てて空力特性を計測・開発・設計に必要なデータを集積します。
自動車用模型風洞実験施設としては国内最大規模を誇り、受託試験や施設の使用貸出にも対応できるよう最新のセキュリティシステムが採用されています。



風流舎内部の風管

株式会社 童夢カーボンマジック

カーボンコンポジット(炭素繊維複合材)は、カーボン繊維に熱硬化性樹脂などを加えてオートクレーブという釜で高温・高圧で焼成させたもので、堅固でも軽量という特性を実現した複合素材です。カーボンコンポジットが車体に用いられるようになってから、レーシングカーの安全性が飛躍的に向上しました。

同社では、安易に海外の技術を導入するのではなく、国内の素材メーカーと協



カーボンコンポジットを焼成するオートクレーブ

注3 主送風機

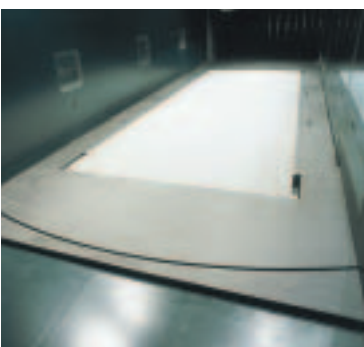
外径4.3メートルの大型の主送風機は、最大風速60m/sまでの安定した送風が可能です。羽を従来のスチールやアルミからカーボンポジット化したことで、大幅な軽量化を実現、加減速時間の短縮や使用電力の軽減によって実験効率が向上しました。



羽をカーボンコンポジットにした主送風機

注2 ムービングベルト

自動車の風洞実験の際、車体下面の空気の流れを正確に再現するために設置されるムービングベルトも同社のオリジナル。ローラーをカーボンコンポジット化して、軽量、高剛性を図り、性能が飛躍的に向上しました。



童夢オリジナルのムービングベルト

注4 魔法の素材
非常に多くの手間がかかるため、量産が難しいカーボンコンポジット製品ですが、次世代航空機のボーイング787の機体に採用されるなど、今後の需要の拡大が期待されています。
社内には、レーシングカー用の部品のほか、自動車部品や産業用機械部品、楽器ケースや眼鏡のフレームなど実にさまざまな製品や試作品が展示されています。製品を手にとってみると、予想以上に軽いことに委員のみならず驚いた様子でした。



クリーンルーム



カーボンコンポジット製のフレームと楽器ケース



憧れのスーパースポーツカーを前に、すっかり「少年」に戻ってしまった委員のみならず、帰路もしばし興奮がさめやらないようでした。
大好きな車づくりを仕事にするという少年時代の夢を持ち続ける林社長——優れたものづくりには、夢と情熱そして技術力が欠かせないことを改めて実感した見学会となりました。



株式会社 童夢 <http://www.dome.co.jp/>

川端や葦を取り入れた住まいが 審査員の高い評価を得て「建築甲子園」で優勝

古閑 愛美さん [滋賀県立安曇川高等学校]

日本建築士会連合会などの主催で、昨年10月に初めて開催された「建築甲子園」は、建築士を目指す高校生を対象に建築のアイデアをトーナメント形式で競うというもの。全国から87作品が集まり、安曇川高校1年の古閑さんの作品「私のまちの油田ーかばたのある地域のくらしー」が見事、優勝に輝きました。

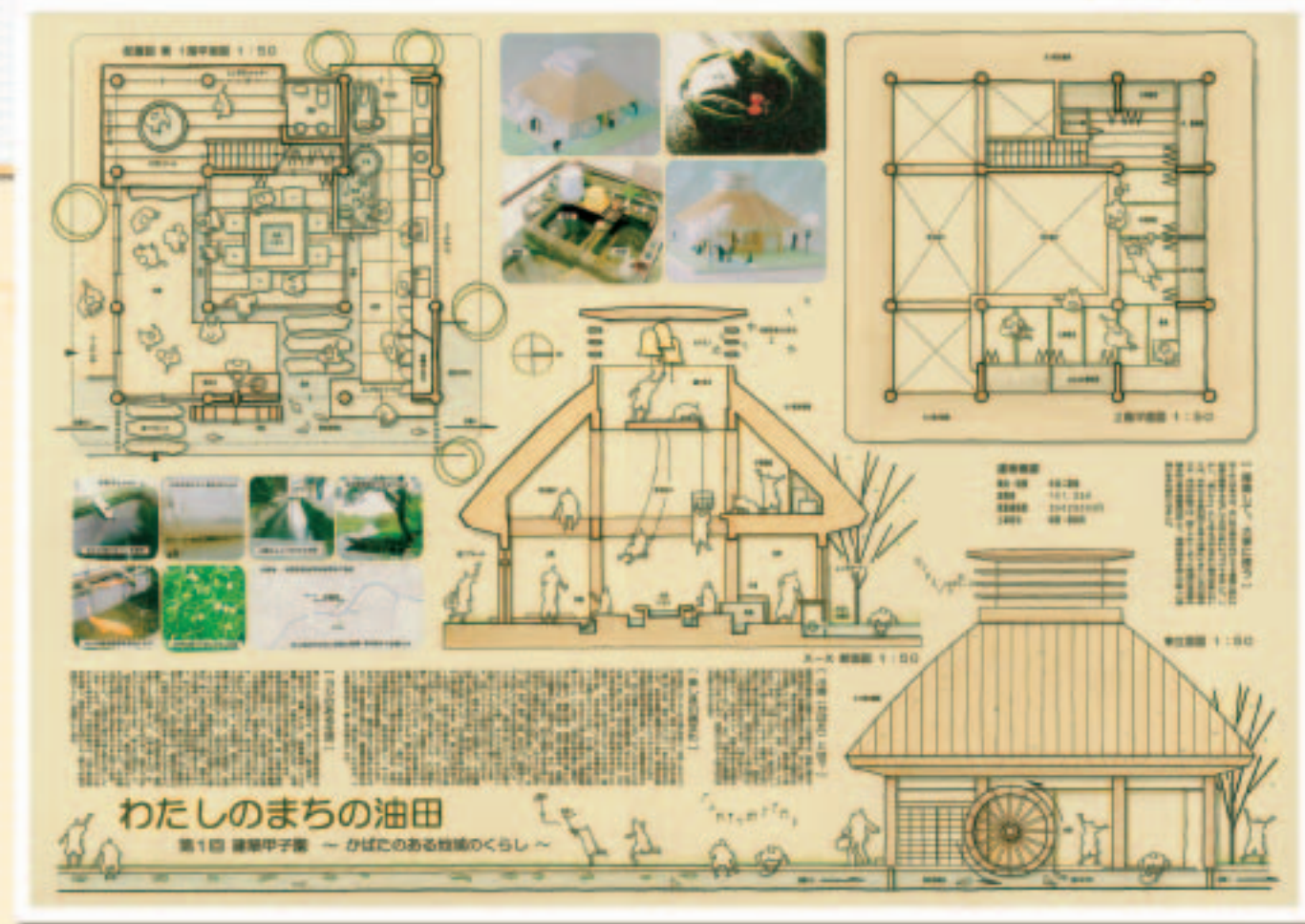
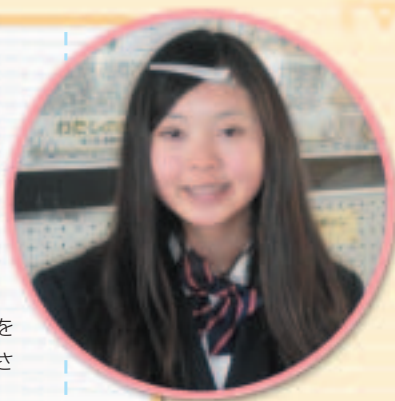
審査員からは、湧き水を生活用水に利用する高島市針江地区の「川端(かばた)」や琵琶湖の葦(よし)など、地域の生活文化がふんだんに取り入れられていて、地域で暮らす楽しさが伝わってくる作品であると絶賛され、琵琶湖の水質保全につながる葦の活用のほか、古材の再利用など、環境に配慮した点についても高く評価されました。

同校では2年生から専門課程に分かれるため、1年の前期を終えたばかりの古閑さんは、まだ建築の専門知識を学んでいませんでしたが、工業科の太田明博教諭の指導の下に、夏休み返上で川端のリサーチをしたり、プランを検討したりしながらプレゼンテーションボードの制作に当たりました。

「母の意見も参考にしながら、冷蔵庫や足湯、プールなど、川端をいろいろな方法で活用するよう工夫しました。葦についても、屋根のほかカーテンなどに利用することを提案しました」と言う古閑さん。家族だけでなく、近所の人や子どもたちが集い、楽しく交流できるような工夫も凝らされています。

中学生の時に、自宅の設計図を見て建築に興味を持ち、建築士を志すようになったという古閑さん。優勝の知らせを受けた時は、「すぐには信じられませんでした。本当に私でいいのかと思ったけれど、優勝できたことがすごく励みになったし、なによりも両親がとても喜んでくれました」と喜びを語ります。

これからいろいろなことを学び、それを活かして、将来は住む人に喜んでもらえるような家を提案できる建築士を目指したいという古閑さんに、太田先生は「今は紙の上だけの家づくりですが、これからさまざまな経験を積んで、安全で暮らしやすく、環境にも配慮した住宅が提案できるようになってほしい」とエールを送ります。



元気 いただきます!

元気 いただきます!

県内にも、ものづくりのスペシャリストを目指してがんばる若者たちがたくさんいます。今回は日頃の努力が実を結んで、優れた成果につながったみなさん取材して、ものづくりの楽しさや未来への夢を語るみなさんから、たくさんの元気をいただきました。

ものづくりの技と心を活かして 省エネカーレースで悲願の優勝を果たす

省エネカーチームのみなさん

[滋賀職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ滋賀)]



昨年10月に開催された「2010 Econo Power in GIFU」の省エネカーレースに、先輩から引き継いだ2台の省エネカー「Reindeer」と「Santa de 1k」で出場、海外から参加した強豪チームなどを相手に善戦し、一般クラスで初優勝した滋賀職業能力開発短期大学校チーム。

「Reindeer」が一般部門でガソリン1リットル当たりの燃費705.92キロという記録で初優勝、「Santa de 1k」も5位入賞を果たしました。

出場に当たって生産技術科1年のメンバー6人は、鈴木祐治先生の指導の下、リタイヤの原因となったエンジンを分解・調整したほか、ボディをより軽くしたり、タイヤのこぼりを良くするために、毎日、授業の後に集まって試行錯誤を繰り返しました。

機械工学などの知識とともに、機械設計や金属などの加工技術を身に付けて、ものづくりのスペシャリストを目指しているメンバーだけあって、金属加工に強い、溶接が得意といった具合に、それぞれの強みを活かして、時には議論をしながら、マシンの改良に取り組みました。

同校では、平成19年からレースに参加してきましたが、平成20年と21年は2台ともリタイヤして、入賞すら果たせなかったことを考えると、今回の快挙によってみなさんの努力が実を結ぶことになりました。

「小さい頃からものづくりが好きだった」「車に興味があった」「専門的な技術を身に付けたかった」「高校で学んだ知識や技能をもっと深めたいと思ったから」と、生産技術科に入校した動機について語るみなさん。将来は専門的な知識や技能にさらに磨きをかけて、「新しい製品づくりや、自分にしかできないような優れたものづくりにチャレンジしていきたい」と夢を描いています。

2台のマシンは、ものづくりのスペシャリストを目指して4月に入校してくる新入生に引き継がれる予定です。6月に鈴鹿で開催される「Honda エコマイチャレンジ2011」が学生時代最後のレースとなるため、「優秀な成績を残して、いい形で後輩に引き継ぎたい」と、ボディの強化やエンジンの調整に全力で取り組んでいます。



V O I C E

読者の声

- ◆「危機への備えが命と地域を守る」の中で、地域の建設会社の役割について再認識しました。宮崎県の口蹄疫も、建設業界の協力があって感染拡大を防げたと言っても過言ではないと思いました。(石井清治さん)
- ◆生涯教育の拠点である旧大津公会堂のルーツがわかって良かったです。(田中敏恵さん)
- ◆今回初めてフォトコンテストに応募しました。入賞はできませんでしたが、砂防ダムの工事現場近くで見学させてもらって感動しました。人間の力のすごさに驚きました。(西村道子さん)
- ◆10年くらい前に焼きそばそうめんを食し、海のない滋賀にもこんなにおいしいものがあるのかと驚きました。また食べたいと思います。(石井浪栄さん)

- ◆息子が大学でリスクマネジメントの勉強をしている関係で、話題の焦点を親子で熱心に読ませてもらいました。(平地雅子さん)
- ◆フォトコンテストの入賞作品を観て、働く人の真剣さとリアル感到感動しました。(加藤志津子さん)
- ◆「かふか夢の森」へはちょこちょこ行きますので、「甲賀市くすり学習館」にも一度立ち寄りたいと思います。(片岡三郎さん)
- ◆滋賀の建設業界の様子がわかってたいへん勉強になります。(宮脇達也さん)
- ◆滋賀のことをもっと知りたいとこの冊子を手にとりました。知らないことがたくさん載っていたので、今後のレジャープランの参考にさせていただきます。(高野理衣さん)

パズル & クイズ 当選者

- | | |
|---------|---------|
| 川添 明美さん | 漣 光彦さん |
| 藤波 喜競さん | 中小路進一さん |
| 佐伯 範夫さん | 天谷由佳里さん |
| 長船 武紀さん | 辻 清美さん |
| 赤丸ます子さん | 小山 正子さん |

前号の答え 大規模災害

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り 平成23年6月20日必着
- あて先 〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18 (社)滋賀県建設業協会 広報委員会

けんせつ家族



After Word 編集後記

この度東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様ならびに被災地に所縁の深いご関係の皆様に対し、謹んでお見舞い申し上げます。また、被災者救助や災害対策に全力を尽くしておられる関係者の方々、それを支えるご家族の方々にも心から敬意を表します。

日がたつにつれ、震災に対する各方面からの復興支援の輪が徐々に広がっていますが、原発問題をはじめまだまだ課題は山積しており、我々建設業としても業界が一丸となって一日も早く被災地を復興し、被災地の方々少しでも早く穏やかな日常を取り戻せるよう最善を尽くす所存です。

今回「見れば納得」のコーナーで、広報委員全員で、レーシングカーで有名な童夢レーシングビレッジの見学会に参加してきました。以前から「童夢」という名前は知っていたものの、お恥ずかしながら地元滋賀県の企業とは知りませんでした。しかも行ってみてびっくり! 玄関を入るといきなりレーシングカー2台が展示されており、男性委員全員が思わず童心に戻ってはしゃいでしまい、早速記念写真撮影大会となってしまうほどの盛り上がり。噂に聞いた風洞実験設備のスケールやカーボンコンポジットの技術にも十分に驚かされましたが、個人的には最初に見たレーシングカーが圧巻でした。やっぱり男子はレーシングカーが好きなんですね。機会があればぜひ読者の皆さんも見に行ってください。

このたびの東北地方太平洋沖地震で被災されたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。社団法人滋賀県建設協会では、去る3月30日に日本赤十字社滋賀県支部を通して1000万円を義援金として被災地へ寄附いたしました。被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

季刊夢けんせつ春号

2011年(平成23年)4月10日

通巻第618号

発行 社団法人滋賀県建設業協会

〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18

TEL.077-522-3232 (代)

FAX.077-522-7743

http://www.yumeken.or.jp

企画編集 広報委員会

協力・印刷 宮川印刷株式会社



さまざまな料理に用いると味を引き立てるのもナチャップの魅力



近江 うまいもの 紀行

「ナチャップ」

彦根市の稲枝地区では、荒神山のふもとの肥沃な土壌を利用して「彦根梨」が栽培されています。幸水と豊水の2品種で、年間生産量は約70トン。樹で完熟させた甘くてジューシーな梨を求めてシーズンには販売所に行列ができるほどです。

できるだけ多くの消費者に一年を通して特産の梨を味わってほしいと、稲枝商工会では規格外の梨をふんだんに使った調味料「ナチャップ」を生産しています。最初に梨を使ったケチャップが作られたことから「ナチャップ」と命名されました。

梨以外に地元産の無農薬タマネギや有機トマト等を使って、地元の社会福祉施設「つばきはらファクトリー」が無添加で一ツ一ツ手作りしています。

商品は「ケチャップタイプ」のほか、「ドレッシングタイプ」「焼肉のたれタイプ」「パスタソースタイプ」の4種類。ケチャップタイプは唐揚げなどの隠し味として、ドレッシングタイプはカルパッチョ、焼肉のたれタイプは野菜炒めなど、いろいろな料理に工夫することで、梨のほじよい甘さとまろやかさで料理の味を引き立てることができます。

稲枝商工会では、「梨の生産者、地元の作業所、



4種類の商品をラインナップしたナチャップ

ケチャップ(200g)、パスタソース(200g) 各400円
ドレッシング(200g) 350円
焼き肉のたれ(240g) 500円

商工会会員など、たくさんの方がかかわってナチャップを製造しています。地元の思いと彦根梨のおいしさが、ぎゅっ詰まったナチャップを是非一度賞味していただきたいと、ナチャップをアピールしてきました。

その甲斐あって、テレビや雑誌でも紹介されるなど、滋賀の新しい特産品としてナチャップの人氣が高まっています。



ジューシーな甘さが人気の彦根梨



キャラクターのナチャップぼうや

問い合わせ ● 稲枝商工会 電話0749-43-2201

*商品は「四番町スクエア」「JA美浜館」(彦根市)、「近江鉄道愛知川駅」(愛知川町)、「長浜まちの駅」(長浜市)、ロイヤルオークホテル、雄琴山荘(大津市)、三井アウトレットパーク内「湖の駅滋賀竜王おいしやうれしや」(竜王)でも販売しています。(一部価格の異なる店舗もあります)

湖国の祭りあれこれ

「麦酒祭」甲賀市

7月18日

[水口町牛飼の総社神社]



写真提供 甲賀市教育委員会、甲賀市商工観光課



麦酒祭・献上酒の決定

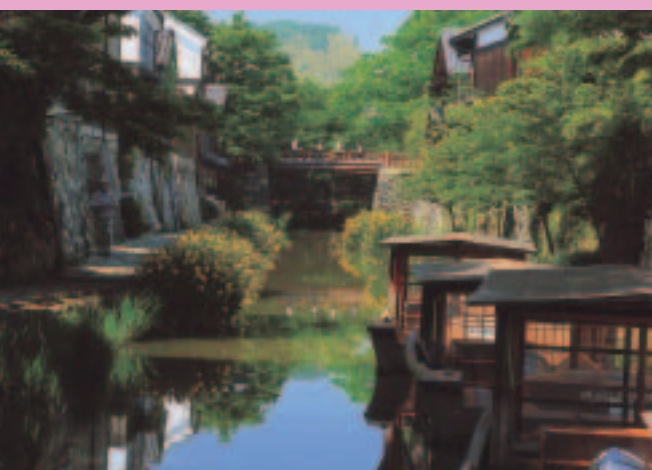
水口町牛飼にある総社神社では、七月十八日に室町時代から五〇〇年以上続く「麦酒祭」が行われます。新麦と麹で醸造した麦酒を奉納し、豊作と夏負け予防を祈願します。

嘉吉元年(四四一年)に本殿が修復された時に麦酒を醸して、麦の豊作と暑気の悪病よけを祈願したことに始まるとされています。

代々伝えられた製法で麦酒を仕込むのはその年の宮守で、前日の未明に汲んだ霊峰飯道山の清水に、蒸した大麦と米麹を混ぜて、一晩かけて三つの桶で発酵醸造させて奉納されます。

麦酒の入った桶を神前に供えて神事を行った後、氏子ら参列者のほか、一般参拝者にも麦酒が振る舞われます。白くドロリとした麦酒は甘酒のような舌触り。日本のビール醸造の元祖とされていることもあって、近年は遠くから見学に訪れるビール愛好家も増えています。

総社神社へのアクセス ● JR草津線貴生川駅からバスまたはタクシー／新名神 甲賀土山ICから20分 新名神 甲南ICから15分、新名神 信楽ICから10分
問い合わせ ● 甲賀市観光協会:0748-60-2690 / 飯道山観光協会



社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp

